

薬理学分野 教授 田中 智之 さとし
リチャード・ハリス 著（寺町朋子訳）
『生命科学クライシス 新薬開発の危ない現場』
 白揚社 (2019)

本書の冒頭では、医薬品の開発につながる、有名な学術誌に掲載されたエポックメイキングな基礎医学研究の大半が再現できないというショッキングな事実が紹介されます。「再現性の危機」は最近の生命科学の大きな話題のひとつであり、研究の再現性が低いことがもたらす様々な弊害が注目されています。



私の学生時代は「統計の力を借りなくてはならないのなら、もっと良い実験を考えた方が良い」という本書に登場するアドバイスは珍しいものではありませんでした。次々と新しい遺伝子が発見され、その役割が解明される時代は確かにそれでも良かったかも知れません。しかし、コンピュータの能力が向

上した現在、一種のデータサイエンスとしての生命科学の重要性が増しています。統計学のセンスのない研究者は、研究不正すれすれの間違った解釈に陥ることすらあるのです。

個人商店スタイルが普通であった研究グループのあり方にも変化が迫られています。大規模なデータを収集、解析するためには、研究方法を標準化し、多数の研究グループが協力しなければいけません。しかし、研究者の評価は相変わらず個人ベースで、そのことが手法の標準化や大規模研究の発展を阻害しています。また、公的な研究費の期間が短いことや、研究者の雇用が任期制であることは、長期的な観点の研究が激減し、上滑りな（再現性のない）科学を奨励することにつながっています。

こうした生命科学の問題点を立て続けに紹介されると暗澹たる気持ちになってきます。しかし、ちょっと頭を切り替えれば、ここにはこれからの生命科学が目指すべき方向性が示されていることに気付くはずで。科学研究の予算に制限がある中、「結果を出す」にはどうしたら良いでしょうか？時代から取り残されている生命科学の領域は、もしかしたら宝の山かもしれないのです。将来の医療、健康を担うみなさんに是非読んでいただきたい一冊です。

NEWS 人事異動

採用

基礎科学系健康科学分野 助教 棚橋 嵩一郎
 (任期：2019. 7. 1～2024. 6. 30)
 事務局会計課 事務員 中西 弘樹
 (2019. 7. 1付)

再任用

医療薬科学系薬物動態学分野 助教 河湊 真治
 (任期：2019. 7. 1～2024. 6. 30)

配置換

事務局施設課 係長 平 薫
 (前 事務局庶務課)
 事務局研究・産学連携推進室 係長 土田 花美
 (前 事務局会計課)
 事務局庶務課 主査 前田 朋宏
 (前 事務局入試課)
 事務局調達検収室 事務員 磯部 正文
 (前 事務局施設課)
 事務局入試課 事務員 中村 洗稀
 (前 事務局企画・広報課)
 (以上2019. 7. 1付)

昇格

事務局次長 [学生サービス担当] 森 洋介
 事務局庶務課 課長補佐 山口 貴
 事務局企画・広報課 係長 谷垣 朱美
 事務局学生課 主査 外村 友彦
 事務局国際交流推進室 主査 佐々木雄太
 事務局情報管理推進室 主査 北村 聡洋
 (以上2019. 7. 1付)

兼務

事務局教務課長
 事務局次長 [学生サービス担当] 森 洋介
 (2019. 7. 1付)

兼務解除

事務局施設課 事務員 磯部 正文
 (事務局調達検収室)
 (2019. 6. 30付)